

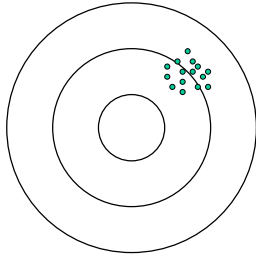
Lesson 20. 評価の要件

§ A. 測定の妥当性

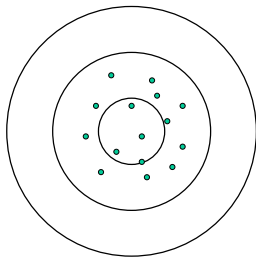
- 測定(検査)の妥当性
 - 被験者が疾患を持っているか持っていないかを示す検査の能力
- 測定(検査)の信頼性
 - 検査を反復した時に一貫して同じ検査結果となるのかを示す確かさ

- 測定の妥当性
 - 正確に目指す的に当たるか
 - 的からはずれないか
 - 正確度 Accuracy
- 測定の信頼性
 - 的にいつも当たるか
 - 的に集中するか
 - 再現性 Repeatability
 - 精度 Precision

妥当性が低い

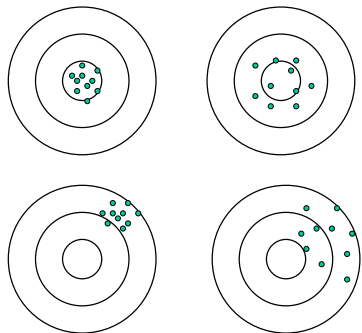


信頼性が低い



高 ← 精度(信頼性) → 低

↑ 正確度(妥当性) ↓
低



測定の妥当性の種類

- 内容妥当性 Content validity
 - 測定された項目がその内容を適切に表すか
- 基準関連妥当性 Criterion validity
 - すでに知られた基準となる測定と一致するか
- 構成概念妥当性 Construct validity
 - 開発の元になる理論的概念と一貫性があるか

内容妥当性

- 外観妥当性 Face validity
 - 測定結果や内容が一見して合っていると一般的に(特に専門家に)受け入れられるか
 - 専門家妥当性 Expert validity
- 抽出妥当性 Sampling validity
 - 測定項目が適切な範囲まで特性を網羅しているか

基準関連妥当性

- 併存的妥当性 Concurrent validity
 - 同一時点で実施した「至適基準」となる他の測定法の結果と一致して相関が高いか
- 予測的妥当性 Predictive validity
 - その測定結果が将来の事象(疾患)について発生(重症化)を予測できるものが

至適基準

Gold standard

- すでに多くの専門家によって一般的に受け入れられ、確立している測定
- 疾患の有無を最も適切に判断できる検査
- 確定診断

構成概念妥当性

- 収束的妥当性 Convergent validity
 - 異なった測定法でも同じ特性を測るもの同士は相関関係が高い
- 識別的妥当性 Discriminant validity
 - 同じような測定法でも異なった特性を測るもの同士は相関関係が無いが、あっても極めて低い

検査の指標との関係

- 感度や特異度は妥当性を示す指標
- しばしば疾患の有無の判定には至適基準を用いる。
